

景 / 観 / 文 / 化

NPO法人 景観デザイン支援機構 Town Design Aid, Japan <http://www.tda-j.or.jp>

2023-09-01

目次

- P1
 ■巻頭
 日韓都市デザイン交流会10周年と今後の課題 / 李 錫賢
- P2
 ■TDA NEWS 1
 第3回WEBセミナー「都市景観・エリアマネージメント・デジタルサイネージ」開催報告 / 中野 竜
- P3~5
 ■TDA NEWS 2
 日韓都市デザイン交流会2023開催報告 / 高谷 時彦・高 殷禎・李 錫賢
- P6
 ■「生物多様性」を通して都市と生活が見えてくる その7 / 並河 みき
- 景観故記
 No.6 ニッポンの団地 / 曾根 幸一
- P8
 ■身近な景観を作る
 第8回 七尾の暖簾：女将さん達が発案した花嫁のれんの展示 / 武山 良三
- ホワイトボード



日韓都市デザイン交流会2023の討論会終了後の集合写真（於 議政府市・信韓大学）

日韓都市デザイン交流会 10周年と今後の課題

2014年、日本の都市デザイン専門家達のソウル訪問がきっかけとなって始まった日韓都市デザイン交流会は今年で10周年になった。最初は軽い出会いで始まった交流会は時間が重なるとともに、参加者が増え、両国の都市デザインに関する紹介や勉強、討論をしながら発展を話し合う集いになり始めた。この10年が短いと言えば短い時間だが、両国の政治的な問題やコロナ感染症の問題など様々な困難の時間も多かった。2019年は日韓の政治情勢が深刻な状況の中、韓国側の参加者が交流会に参加するため密かに日本に入国したこともあった。その交流会は、以前より意味深い話をする事ができたと思われる。

10周年目の記念交流会となる今年は、韓国仁川市^{インチョン}と議政府市^{ウイジョンブ}で開催し、両自治体の都市デザインの問題に対して、両国の専門家達が発表と議論を重ね具体的な提案をするレベルまで発展した。それは2014年から様々な混乱を超えて蓄積された日韓都市デザイン交流会の経験がなければ得られない成果だと思われる。その間、私も含め両国の専門家たちは少し歳を重ねたが、都市デザインに関する情熱は2014年と同じであり、同じ志しの専門家達はさらに増えている。中国や他のアジアなどの専門家達との交流に拡大したい願いもあるが、このようなよい集いを継続することが何より大事なことだと思われる。次の世代のため、この交流会の役割を担う新たなメンバーの参加や出版などを通じた10回の交流会の歴史の整理、両国の都市デザインに対して共同のデザインをするきっかけ作るなど、より実践的な交流会としていくことが今後の課題だと思われる。また、日韓都市デザイン賞を作り、都市デザインの発展に貢献した個人と団体に対し権威ある賞を贈ることも必要だと思われる。これからの日韓都市デザイン交流会の歩みをより期待している。

韓国・中央大学教授 李 錫賢